

2022 年度事業報告

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

2022 年 6 月 22 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・ 2021 年度 事業報告の件

を報告し、

- ・ 第 1 号議案 2021 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件を諮り、原案どおり承認された。

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、会員の総会会場への来場を抑制するとともに、議案書を当会 HP の会員専用ページへ掲載し、電磁的方法での議決権行使の活用を推奨した。(議決権行使者は 3,991 名、うち 3,871 名が電磁的方法による議決権行使によるもの。)

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については退会 1 法人、個人会員については入会 247 名、退会 180 名があり、2023 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	2,056 名
準 会 員	1,438
研 究 会 員	2,070
小 計	5,564
法 人 会 員	107 法人
合 計	5,671 名・法人

3. 事業報告

[A. 試験関係]

(A1) 資格試験の実施

2022 年 12 月 12 日～16 日の 5 日間、CBT (Computer Based Testing: コンピューターを利用した試験) 方式にて実施し、2023 年 2 月 24 日に結果発表を行った。なお、2022 年度資格試験より、紙による試験方式から CBT 方式へ移行するとともに、東京、大阪以外の都市にも試験会場を拡大し、受験生の利便性向上を図った。

第 1 次試験の総受験科目数は 2,704 科目、うち合格科目数は 624 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 127 名であった。※2023 年 5 月 11 日試験問題に関する訂正に伴う数学の追加合格者を含む。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	767	482	512	369	574
合格者数 (人)	108	95	110	123	188
合格率	14.1%	19.7%	21.5%	33.3%	32.8%

第2次試験の総受験科目数は1,074科目、うち合格科目数は153科目であり、その結果、(基礎科目も含めた)新たな全科目合格者数は64名であった。

第2次試験 (専門科目)	生保1	生保2	損保1	損保2	年金1	年金2
受験者数(人)	361	323	144	105	72	69
合格者数(人)	52	51	22	11	5	12
合格率	14.4%	15.8%	15.3%	10.5%	6.9%	17.4%

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、試験会場で検温等の感染予防対策を実施するとともに、受験生への感染予防対策等に関するお願いを実施した。

(A2) CERA 試験の実施

日本のCERA試験は、英国アクチュアリー会(Institute and Faculty of Actuaries; 以下、IFoA という)のSP9(Enterprise Risk Management Specialist Principles)をベースとしているが、IFoAでは2022年9月期のSP9試験がオンライン試験で実施されることを踏まえ、当会のCERA試験についても、2022年9月23日にIFoAのオンライン試験プラットフォームを利用した形で実施した。2023年1月11日に結果発表が行われ、受験者数は36名、うち合格者は13名(合格率36.1%)であった。新たにCERA資格を14名に付与し、その結果、2023年3月末のCERA資格者数は119名となった。

(A3) 教科書の改訂

2023年2月、「損保」については、正誤表の反映に加え、記載の今日的な見直しを行い、「年金」については、全5分冊のうち第1分冊から第4分冊について、確定給付企業年金法および確定拠出年金法の改の内容を反映し、それぞれ改訂を実施した。

[B. 教育・研修・研究発表関係]

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー基礎・特論講座を、2022年5月11日から2022年10月31日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
基礎講座 (6グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確率論、統計論、確率論演習、統計論演習 (67名) ・ モデリング (71名) ・ 損保数理 (97名) ・ 会計学、経済学、投資理論 (100名) 	左記の通り
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生保数理、生命表 (84名) ・ 年金数理 (83名) 	
特論講座 (7科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険選択論 ・ 保険監督法 ・ ファイナンス数理 ・ 社会保険論 ・ 年金実務法規 ・ リスクマネジメント論 ・ 人口論 	28名

アクチュアリー追加演習講座を、2022年9月14日から2022年11月25日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
追加演習講座 (4科目)	・生保数理演習 (23名) ・損保数理演習 (32名) ・年金数理演習 (19名) ・モデリング演習 (21名)	左記の通り

ERM 関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座 (ERM) を、2022 年 7 月 25 日から 2022 年 9 月 13 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3科目)	・ファイナンス数理 (※) ・リスクマネジメント論 (※) ・ERM ※特論講座と共通科目	19名

アクチュアリーの業務領域に有益なデータサイエンス関連の専門知識・技能を、PC を用いた実習により習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座 (データサイエンス) を 2022 年 11 月 30 日から 2023 年 3 月 18 日の期間で実施した。また、一定期間 (2023 年 2 月 6 日～4 月 16 日)、録画された講義を視聴可能とした、オンデマンド講義を実施した。受講状況は次の通り。

	内容	受講者数
専門講座 (データサイエンス) (前編・後編)	【前編】 ・R の導入と簡単な回帰モデル ・線形回帰モデル ・線形判別分析 ・決定木 ・一般化線形モデル 1 ・一般化線形モデル 2 ・生存時間解析の基礎 【後編】 ・予測モデリングの基本手順 ・探索的データ解析 (EDA) ・予測モデリング用のモデル例 ・モデルの選択・評価の方法 ・回帰問題での実践 (GW) ・分類問題での実践 (GW)	14名
オンデマンド 講義	・主成分分析・因子分析の基礎	

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、すべての講座について、オンライン形式での開催とした。また、講義に参加できなかった受講者向けに講義録画動画の配信を実施しており、今年度からは配信期間を 2 週間程度に延長した。

(B2) 日本アクチュアリー会年次大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、原則オンライン形式としつつ、ウィズ/アフターコロナ社会に向け、開会式、特別講演を含む一部プログラムでは会場 (MY プラザホール) での参加も可能なハイブリッド形式として 2022 年 11 月 4 日に開催した。当日のプログラムは以下の通り。

- ・開会式 (理事長挨拶、祝辞、優秀論文表彰)
- ・特別講演 (AI 時代の将棋界 羽生 善治氏 (将棋棋士))
- ・プレゼンテーション (ICA2023 シドニーについて -ICA2026 東京に向けて- Andrew Boal 氏 (ICA2023 組織委員長)、庄子 浩 君 (ICA2026 組織委員長))

・ 論文発表 / プレゼンテーション / パネルディスカッション / Open Discussion Forum

全体で、論文発表：12編、プレゼンテーション：8セッション、パネルディスカッション：4セッション、英語によるディスカッション・フォーラム：11セッションが行われた。なお、配信された動画は、大会終了後、eラーニングシステムに掲載され、再視聴も可能とした。

(B3) IT 研究大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、2023年2月17日、第62回IT研究大会をオンライン形式で開催した。IT研究大会専用ホームページへの文書等の掲載（技術グループによる新技術紹介）や動画配信（IT研究会第1グループから第5グループによる活動報告）とし、動画は配信後もeラーニングやYouTube（限定公開）にて一定期間の視聴を可能とした。

(B4) 例会の開催

2022年度は次の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2022. 5. 27) [生命保険]	気候変動の現状と生命保険に与える影響	Chris Falkous 氏 (RGA リインシュアランスカンパニーのヴァイス・プレジデント&シニア・バイオメトリック・インサイト・アクチュアリー) Georgiana Willwerth-Pascutiu 氏 (RGA インターナショナル・コーポレーションのヴァイス・プレジデント&グローバル・メディカル・ディレクター)
	(第1回再放送) 6月10日	
第2回 (2022. 9. 7) [生命保険]	就業不能リスク管理 - データプールとドイツの就業不能新標準テーブル	Dr. Andreas Heider (Gen Re シニア・アクチュアリー)
	(第2回再放送) 9月21日	
第3回 (2022. 10. 21) [その他]	アクチュアリーチームのためのアジリティ入門	Al Mele 氏 (The Global Head of Agility for SCOR) Jennifer Nusbaum 氏 (The Head of Agile Coaching for SCOR's Americas offices) Sidharth Sadani 氏 (Senior Data Scientist) Dan Delany 氏 (Assistant Vice President, Actuary - Pricing)
	(第3回再放送) 11月7日	

第4回 (2022. 11. 9) [生命保険]	がん既往者のリスク評価における課題と解決策 — 最新の医療進歩と技術評価に関する考察	Dr. Andreas Armuss (ミュンヘン再保険会社 シンガポール支店 チーフメディカルオフィサー)
	(第4回再放送) 無し	
第5回 (2022. 12. 2) [その他]	金融リテラシー教育の現状と今後 目指すべき方向性 【日本年金数理人会と共催企画】	神戸 孝氏 (FPアソシエイツ&コンサルティング株式会社 代表取締役)
	(第5回再放送) 無し	
第6回 (2022. 12. 23) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナルリズム研修(継続教育)と共同開催 (B9) 参照)	
	(第6回再放送) 1月13日	
第7回 (2023. 1. 27) [データサイエンス]	パンデミックにおける統計学	米岡 大輔氏 (国立感染症研究所 感染症疫学センター室長)
	(第7回再放送) 無し	
第8回 (2023. 2. 28) [データサイエンス]	機械学習の保険実務への活用 ~過去・現在・未来~	Neil Chapman氏 (Willis Towers Watson プライシング・プロダクト・クレーム・アンダーライティング(PPCU)部門のグローバル副責任者) 山田 剛君 (Willis Towers Watson)
	(第8回再放送) 3月14日	
第9回 (2023. 3. 16) [生命保険]	Long COVID – a Challenge for Life & Health – Long COVID 生命保険の課題に?	Dr. Gabriele Teichmann (ハノーバー・リー グループメディカルオフィサー、ライフ・リスク・アセスメント部門ゼネラルマネージャー)
	(第9回再放送) 3月30日	

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、すべてオンライン形式での開催とした。また、当日参加が難しい会員向けに例会当日の録画内容の再放送を実施した。

(B5) 関西委員会分科会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし2023年3月8日に開催した。なお、当日参加が難しい方のために、録画動画の再放送を3月15日に実施した。

(2023. 3. 8) [生保・年金・リスク管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM 分科会
	(再放送) 3月15日	

(B6) ムーンライトセミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし、2022年12月から2023年2月にかけて次の4つのテーマで開催した。

「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する基本的な内容の暫定決定」を踏まえて、定性的・定量的に考察してみよう	大川 篤 君 (ミリマン)
異常検知を学ぼう	宮崎 亮 君 (有限責任監査法人トーマツ)
Interpretable Machine Learning	岩沢 宏和 君 および データサイエンス関連基礎調査WG (IML チーム) 委員
アクチュアリー実務でのアプリケーションとプログラミングの活用	青山 一基 君 (CLIMB アクチュアリーオフィス合同会社)

(B7) 関西セミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし、2023年2月15日に次のテーマで開催した。

・ ランダム効用理論に基づく保険商品市場競争に関する考察 ・ リアル・オプション法を用いた損害保険事業モデルへの再保険と所要資本の考慮 ・ グリーンファクターを組み込んだ CAPM による最適なポートフォリオ配分の考察 ・ 伝統的商品と低・無解約型商品の解約率変化に伴うリスクとリターンの違い ・ 破産理論モデルを応用した生命保険契約群団規模毎のリスク分析及び有配当生命保険商品のリスク検証に関する一考察	京都大学大学院理学研究科 保険ゼミ生
--	-----------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・ IAA リスクブック第18章 (契約者行動と経営者判断)
- ・ 2020年度第6回例会「未来の健康を予測するデータサイエンスの力」 ※動画配信
- ・ 2020年度第7回例会「ニューノーマルにおけるリモートワーク」「保険業界の次の波 (Next Wave) とシナリオと打ち手 -新型コロナウイルスの影響もふまえて-」 ※動画配信
- ・ 2020年度年次大会「ウェアラブル×データサイエンス～保険への活用～」 ※動画配信
- ・ 2020年度年次大会「アクチュアリーにとっての気候変動」 ※動画配信
- ・ 2020年度年次大会「【ASTIN 関連研究会】 SOA テキストに見る損保数理の最近の動向」 ※動画配信
- ・ 2020年度年次大会「海外年金 (ドイツ・オーストラリア) の紹介と日本への示唆」 ※動画配信
- ・ 2020年度年次大会「感染症数理モデルと COVID-19」 ※動画配信
- ・ 2020年度プロフェッショナルリズム研修・第3回例会「会社内アクチュアリーのアジェンダ」 ※動画配信
- ・ 2020年度 Open Discussion Forum①AI & Data Science ※動画配信
- ・ 2020年度 Open Discussion Forum②COVID-19 ※動画配信

- ・ 2020 年度 Open Discussion Forum③ICS、IFRS17 and Regulation ※動画配信
- ・ 2020 年度 Open Discussion Forum④Asian countries ‘microinsurance ※動画配信
- ・ 2020 年度 IT 研究大会「COVID-19 によるデジタル・ドリブン IT 技術と保険会社のオペレーションの変化」
- ・ IAA リスクブック第 19 章（ストレステスト）
- ・ 2021 年度第 1 回例会「COVID-19 克服への医学的知見と将来動向」「COVID-19 がグローバルな生命保険商品に与える影響—ポストコロナ時代に定着する変化は？」 ※動画配信
- ・ 2021 年度第 2 回例会「欧州の個人年金市場に関する最新動向および長寿リスクに関連する死亡率のデータ分析に関する実務」 ※動画配信
- ・ 2021 年度第 3 回例会「ポストコロナを見据えた債券投資の理論と実践」
- ・ 2021 年度第 4 回例会「行動を科学する ～データが生まれる瞬間～」
- ・ 2021 年度第 5 回例会「英語論文執筆の実際」
- ・ 2021 年度第 7 回例会「(Part1) 気候変動が生命保険と医療保険に与える影響／(Part2) 損害再保険に対する物理的な気候変動リスクの影響の評価」
- ・ 2021 年度第 8 回例会「EBPM と現実の政策立案」
- ・ プロフェッショナルリズム研修（継続教育）2021

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① プロフェッショナルリズム研修（継続教育）を、2022 年 12 月 23 日に次の内容で実施した。
（再放送：2023 年 1 月 13 日）

- ・「延命医療について考える — 人工的水分・栄養 会田 薫子 氏（東京大学大学院人文社会学系死生学・応用倫理センター 補給法で生きるということ」 上廣講座、特任教授）

- ② プロフェッショナルリズム研修（初期教育）を、2023 年 3 月 10 日に実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。

- ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ 日本アクチュアリー会行動規範 宮本 淳 君（第一フロンティア生命）
- ・ 生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君（日本生命）
- ・ 損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君（損保ジャパン）
- ・ 年金のプロフェッショナルリズム 堀田 晃裕 君（有限責任監査法人トーマツ）
- ・ ケーススタディ 榎原 昭仁 君（りそな銀行）

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式での開催とした。

(B10) 特定分野研修（初期教育）の実施

特定分野研修（初期教育）を 2023 年 3 月 13 日～16 日に実施した。なお、この研修は 2024 年度より正会員資格の認定要件となる。

2023. 3. 13	金融システム	高橋 智彦 氏 (拓殖大学政経学部教授)
2023. 3. 14	アクチュアリアル・リスクマネジメント	藤澤 陽介 君 (住友生命)

2023. 3. 15	データとシステム	岩沢 宏和 君 (早稲田大学商学大学院客員教授)
2023. 3. 16		

(B11) CERAに関する研修等の実施

2023年1月21日、CERA試験の合格者を対象に、ERMに関する日本特有の状況やERMのケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修はCERA資格の認定要件であり、受講修了者は10名であった。

(B12) 研究集会の実施

テーマに沿った先端的な研究を題材に会員と研究者・大学院生などが討論し論文の深掘を行うことを目的とし、2022年度研究集会を2023年2月25日に行った。プログラムは、2023年ICAシドニー大会で発表予定の論文に対しpeer reviewを行うことを通して、2026年ICA東京大会の論文発表に向けて興味を広げることを期待して構成された。

[C. 調査・研究活動]

(C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第28回標準死亡率諮問委員会が、2022年11月16日に開催され、「生保標準生命表2018(死亡保険用)」、「第三分野標準生命表2018」及び「生保標準生命表2007(年金開始後用)」について、2023年度に継続適用することが了承された。

(C2) 実務基準の整備

外貨建保険に係る標準責任準備金制度の新設に伴う対応等のため、「生命保険会社の保険計理人の実務基準」と「生命保険会社の保険計理人の実務基準」解説書について、2023年3月に所要の改正を行った。

(C3) 経済価値ベースのソルベンシー規制・会計基準等への対応

- ① 2022年6月に金融庁から公表された、「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する基本的な内容の暫定決定について」を受け、金融庁と当会が連携して検討すると位置づけられたガイダンス等を検討している。
- ② 当局提示の「経済価値ベースの評価・監督手法の検討に関するフィールドテスト」における「保険負債の検証レポート」の記載項目に「MOCE」および「資産ポートフォリオによって複製可能な保険負債」が追加されたことを受け、「保険負債の検証レポートの記載要領」および「記載要領の背景」を改訂し、2023年3月に一般公開ホームページにて公表した。

(C4) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討WGにおいて、2023年3月、「給付事由が公的医療制度やその他医療制度とリンクする生命保険商品の数理事項(予定発生率等)」、「高齢者向け生命保険商品の数理事項(予定死亡率、予定発生率等)」をテーマとしたオンライン形式での意見交換会を実施した。

(C5) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA(国際アクチュアリー会)の委員会活動への積極的な参画を通じて対応した。IAAは、国際的なアクチュアリー専門職団体として、IASB(国際会計基準審議会)及びIAIS(保険監督者国際機構)において行われて

いる検討に関して、パートナーシップ契約等を締結し、アクチュアリアルな事項に関し助言等を行っている。

(C6) IAA 教育シラバス改訂への対応

- ① 2021 年より 2017IAA 教育シラバスが発効されたことも踏まえつつ、将来の本会の試験・教育制度について、試験・教育企画委員会及び傘下の PT 等にて対応を検討している。
- ② 2017IAA 教育シラバスに対する短期的対応として、「金融システム」「データとシステム」「アクチュアリアル・リスクマネジメント」の 3 つの分野の研修（「特定分野研修（初期教育）」と総称）の初回研修を 2023 年 3 月 13 日～16 日に開催した。（(B10) 参照）

(C7) 少額短期保険計理人の機能発揮に向けた取り組み

少額短期保険計理人関連検討 PT において、2021 年度にまとめた中間報告における残課題を整理のうえ、少額短期保険業者の保険計理人（以下、少短計理人）の実務の参考となる文書等として少額短期保険業者の保険計理人の実務ガイド等を作成し、2023 年 2 月に開催した本会主催の少短計理人による意見交換会で説明し意見を聴取した。少短計理人の意見等を少額短期保険業者の保険計理人の実務ガイド等に反映のうえ、2023 年 3 月に会員向けに公表した。

(C8) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

(C9) 気候変動リスク・サステナビリティに関する取り組み

- ① IAA や海外アクチュアリー会が気候関連リスク・サステナビリティに関する活動を活発化させ、また、近年日本の金融機関のリスク管理においても注目が集まっている状況を踏まえ、今後の本会の取り組み方針を検討した。
- ② 2023 年 3 月に気候変動・サステナビリティ研究会を設置し、気候変動に関連するリスク、サステナビリティに関する情報収集や研究・調査等を行うこととした。

[D. 意見表明]

(D1) IAA のカウンシルでの投票（電子投票を含む）

- ① 2022 年 5 月、IAA カウンシル・ミーティング（ブリュッセルとオンラインのハイブリッド）において、教育ガイドラインの改定、2021 年度の財務諸表、欠員の委員長任命等について、賛成として投票を行った。
- ② 2022 年 7 月、ウクライナに関するステートメントについて、賛成として投票を行った。
- ③ 2022 年 10 月、IAA カウンシル・ミーティング（モントリオールとオンラインのハイブリッド）において、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ④ 2022 年 12 月、IAA の電子投票（準会員組織の Policy の新設、内部規則改正、SPC メンバー選出方法の変更）において、内部規則改正について投票を棄権し、その他の議案については賛成として投票を行った。

〔E. 国際関係〕

(E1) IAA 活動

IAA に委員を派遣し、委員会活動に積極的に参画している。また、2021 年度に引き続き、ICA2026 を見据え、正会員の IAA への参画機会を増やしていくことを目的に、IAA バーチャルフォーラムに 2022 年度を任期としてオブザーバーを選任した。

<委員会への派遣メンバー>

Actuarial Standards Committee	河野 年洋 君 (個人)
Strategic Planning Committee	吉村 雅明 君 (ミリマン)
Advance Committee	吉村 雅明 君 (ミリマン)
Membership Committee	村田 富生 君 (大樹生命)
Professionalism Committee	吉村 雅明 君 (ミリマン)
Education Committee	藤澤 陽介 君 (住友生命)
Advice & Assistance Committee	関根 賢二 君 (マージュ)
Insurance Accounting Committee	中村 吉男 君 (住友生命)
Insurance Regulation Committee	重原 正明 君 (第一生命経済研究所)
Pensions Accounting Committee	関根 賢二 君 (マージュ)

<フォーラムへの派遣メンバー>

Pensions, Benefits and Social Security Forum	関根 賢二 君 (マージュ) 西井 祐一 君 (第一生命) ※オブザーバー
Social Security Subgroup	清水 信広 君 (全国生協連) 日下部 健児 君 (みずほ信託) ※オブザーバー
Enterprise & Financial Risk Forum	藤澤 陽介 君 (住友生命) ※副委員長 長 信一郎 君 (明治安田生命) ※オブザーバー 広瀬 航 君 (富国生命) ※オブザーバー
General Insurance Forum	山田 龍太郎 君 (ガイクーパー) ※副委員長 塩島 薫 君 (あいおいニッセイ同和損保) ※オブザーバー
Data Analytics Virtual Forum	山田 龍太郎 君 (ガイクーパー) 谷川 正磨 君 (明治安田生命) ※オブザーバー 庄司 裕 君 (富国生命) ※オブザーバー
Inclusive Insurance Virtual Forum	関根 賢二 君 (マージュ)
Mortality Virtual Forum	勝野 健太郎 君 (住友生命) 横井 裕明 君 (朝日生命) ※オブザーバー 長島 崇行 君 (太陽生命) ※オブザーバー

<セクションへの派遣メンバー>

AFIR/ERM	砂本 直樹 君 (富国生命) 山下 実若 君 (東海東京フィナンシャルホールディングス)
ASTIN	海老崎 美由紀 君 (監査法人トーマツ)
IAALS (LIFE)	反橋 拓朗 君 (ハノーバー再保険)
PBSS	清水 信広 君 (全国生協連)

(E2) 2022 年度 東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の開催中止

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、2022 年度の ASEA 講座は開催を中止することとした。

(E3) 国際会議等への派遣等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されている。

- ① 2022 年 5 月 4 日～5 月 8 日 IAA 会議 (於：ベルギー・ブリュッセル)
上田 泰史 君、村田 富生 君 (バーチャル)、吉村 雅明 君、清水 信広 君、河野 年洋 君 (バーチャル)、重原 正明 君 (バーチャル)、中村 吉男 君 (バーチャル)、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君 (バーチャル)、富村 雄三 君
- ② 2022 年 10 月 14 日～10 月 16 日 IAA 会議 (於：カナダ・モントリオール)
上田 泰史 君、村田 富生 君、吉村 雅明 君、河野 年洋 君 (バーチャル)、重原 正明 君 (バーチャル)、中村 吉男 君 (バーチャル)、富村 雄三 君

(E4) ICA2026 に向けた取り組み

会議運営業者を決定するとともに、ICA2026 準備委員会を ICA2026 組織委員会に改組し、準備態勢を整備した。ICA2023 シドニー大会での東京大会のプロモーションやバトンパスイベントに向けた準備を行っている。

(E5) Convention A 運営への参画

2022 年 9 月 19 日～23 日にかけて行われた、Convention A (European Actuarial Academy (EAA) と actuview が共同でオンラインにて開催したオープンコンベンション) の運営に参画し、「今、アクチュアリーは何をすべきか～データサイエンスを中心に」をテーマとし、データサイエンス関連基礎調査 WG における成果等を発表した。

[F. 評議員会]

- (F1) 2023 年 3 月 1 日に第 34 回評議員会を開催し、2022 年度事業報告、2023 年度事業計画(案)、アクチュアリー資格試験の受験者数について審議した。

[G. 学術活動]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君 (住友生命)、齊藤 弘行 君 (住友生命)、中村 吉男 君 (住友生命)、片寄 郁夫 君 (りそな銀行)、辻 芳彦 君 (大同生命)、豊留 健 君 (日本生命)、山内 宗幸 君 (日本生命) 及び柳戸 祐二 君 (日本生命) を派遣した。
- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君 (住友生命)、武村 昌紀 君 (大同生命) 及び柳戸 裕二 君 (日本生命) を派遣した。
- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、松本 浩司 君 (住友生命) を派遣した。
- (G4) 早稲田大学より生保数理、年金数理及び損害保険の理論と実務、プロフェッショナルリズムの

講師派遣の依頼があり、安達 良喜 君（明治安田生命）、田中 浩一 君（明治安田生命）、浜田 淳一 君（明治安田生命）、荒井 昭 君（明治安田生命）、越後谷 斉一 君（明治安田生命）、関口 健太郎 君（エオングループジャパン）、藤澤 陽介 君（住友生命）、塩島 薫 君（あいおいニッセイ同和）、青木 拓郎 君（損害保険ジャパン）、堀田 周平 君（三井住友海上）を派遣した。

(G5) 2022 年 5 月 14 日、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、学術活動の一環として、冨村 雄三 君（事務局長）を派遣した。

(G6) 2022 年 6 月 9 日、関西大学システム理工学部数学科において、学部 3 回生を対象にアクチュアリーについて紹介するキャリアガイダンスがオンライン形式で開催されることとなり、学術活動の一環として、藤井 陽介 君（関西委員会）を講師として派遣した。

[H. 表彰関係]

(H1) 2021 年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

伊藤 利太郎 君（PwC あらた監査法人）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学 1 名、生保数理 1 名、損保数理 1 名、年金数理 1 名、会計・経済・投資理論 1 名、損保 1 1 名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

① 2022 年 11 月 4 日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「INLA による時空間の従属性を考慮した頻度モデル」

佐野 誠一郎 君（共栄火災海上保険）

② 2023 年 2 月 17 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「新たな開発手法・技術等を活用した金融・保険会社による「新たな価値・サービス」の提供」
（ IT 研究会 第 4 グループ ）

「ニューノーマル下における保険会社の IT 戦略」

（ IT 研究会 第 5 グループ ）

[I. 広報・出版活動]

(I1) 情報提供機能の充実

① 2022 年 8 月に、本会ホームページの「合格者の声」について、2022 年度版としてリニューアル（紹介メンバーの入替え）を行った。

② 2023 年 2 月 4 日、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーを、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式にて開催した。参加者は 86 名であった。

(I2) 関連協会の事業への協力活動

① 公益財団法人 数学オリンピック財団が主催する公益目的事業「IMO2023 日本大会」等への協賛を実施した。

② 公益財団法人 日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園 2022」の本選に協賛する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(13) 会報等の刊行

① 会報

第 75 号	<ul style="list-style-type: none">・リアル・オプション法による損保事業価値評価について・日本アクチュアリー会初期会員について — 百年史の余話として—・定理証明支援系 Coq を用いたアクチュアリー数学の形式化・INLA による時空間の従属性を考慮した頻度モデル・確定給付企業年金のリスク管理に関する一考察・株式価値最大化を目的とした ESR 適正水準の検討・健康情報を活用した配当還元に関する一考察
--------	---

② 会報別冊

第 292 号	<p>「米国アクチュアリー協会(SOA)の経済シナリオ・ジェネレーター実用ガイド」<国際関係委員会></p> <p>第 1 章：経済シナリオ・ジェネレーターとは何か？</p> <p>第 2 章：経済シナリオ・ジェネレーターの必要性</p> <p>第 3 章：規制要件を満たす上での ESG の役割</p> <p>第 4 章：保険および年金業界における ESG のビジネスアプリケーション</p> <p>第 5 章：優れた ESG の本質的な特徴は何か？</p> <p>第 6 章：モデル仕様と定型化されたファクトの考慮事項</p> <p>第 7 章：モデルのキャリブレーションとパラメータ化</p> <p>第 8 章：モデルの検証（バリデーション）</p> <p>第 9 章：無裁定モデリングに関する考慮事項</p> <p>第 10 章：リスク中立シナリオの役割</p> <p>第 11 章：デフォルトのない金利モデル</p> <p>第 12 章：社債モデル</p> <p>第 13 章：エクイティインデックスモデル</p> <p>第 14 章：国際的な考慮事項</p>
第 293 号	<p>各国間の規制資本要件の合算 理論的・実践的な考察 <国際関係委員会></p> <ul style="list-style-type: none">・エグゼクティブサマリー・セクション 1：背景と導入・セクション 2：スカラーの目的・セクション 3：スカラーの評価基準・セクション 4：スカラー方式の評価・セクション 5：結論
第 294 号	<p>気候に関するシナリオについてのイントロダクション IAA ペーパー(翻訳)</p> <p>エグゼクティブ・サマリー</p> <ol style="list-style-type: none">1. ハイレベルな気候経路の紹介2. 気候関連のリスクと機会3. リスク分析への取り組み4. シナリオ：プロセス、基準および分析5. 主要課題6. 次のステップ

第 295 号	<第 61 回 IT 研究大会報告> <ul style="list-style-type: none"> ・ ローコード／ノーコードによるシステム構築への取り組み ・ 保険会社が選択すべき IT インフラの研究 ・ システム開発の海外委託の効率的活用とリスク管理 ・ IT を活用したサステナビリティへの取り組み ・ 新たなサービス創出・CX 向上に向けた協業体制と人材育成
---------	---

③ アクチュアリージャーナル

第 119 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度 第 6 回例会 ・ ASTIN Bulletin Abstracts (ASTIN 関連研究会翻訳) ・ 2021 年度 AFIR 関連研究会 活動報告 ・ 2021 年度 関西委員会分科会活動報告 ・ 2021 年度 ムーンライトセミナー報告 ・ 2021 年度 新 CERA 資格者決定 ・ 2021 年度 継続教育制度履修目標達成者 ・ 2021 年度 資格試験合格者発表 ・ 連載 アクチュアリーリレートーク (第 20 回)
第 120 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ APRIA 26th annual conference 参加報告 ・ 2021 年度継続教育の履修状況について ・ 2022 年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿 ・ 連載 アクチュアリーリレートーク (第 21 回)
第 121 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクチュアリー会 会報 続・歴史の散歩道 ・ 連載 アクチュアリーリレートーク (第 22 回)
第 122 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告 2022 年度 アクチュアリーセミナー 広報委員会アクチュアリーセミナー部会・関西委員会 ・ 連載 アクチュアリーリレートーク (第 23 回)
特別号 <リスクと保険第 19 号>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別寄稿 生命保険システムのダイナミズム：生命保険 140 年の歴史からの教訓 ・ 講演 行動経済学で考える保険：共同体メカニズムの観点を中心に ・ 論文 改良型 SVR 感度分析法による地域間死亡率格差の要因分析

④ 2022 年度資格試験問題集

⑤ 2022 年度年次大会報告集 (対面及びオンラインのハイブリッド開催)

(14) 広報誌の改訂

2022 年 5 月、個人会員数の業態別内訳・年次別推移および法人会員一覧の更新等の改訂を行った。